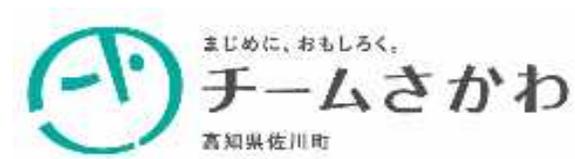
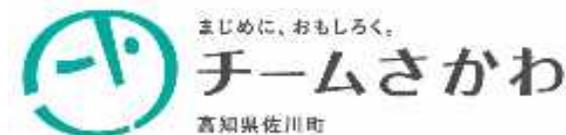


# 道の駅さかわ(仮称) 基本構想

2020年2月  
佐川町



# 目次



1. 整備の背景と目的
    - 道の駅計画策定の背景
    - 道の駅の整備目的
  2. 佐川町と周辺の現状分析
    - 現状分析
    - 計画地の選定理由
  3. コンセプト
  4. 道の駅の機能
    - 大きな柱機能「市」「食」「観」と各機能の展開案
    - おもちゃ美術館
    - 防災拠点機能の付加(国土交通省資料引用)
  5. ゾーニング
  6. 運営体制
  7. デザインの重要性と商品開発
  8. スケジュール
- (参考資料)
- ・各WSの実施内容と参加者から出た意見(一部抜粋)
  - ・道の駅とは(国土交通省資料引用)

# 「道の駅」計画策定の背景①

## ① 「まじめにおもしろい」総合計画の策定まで

- 平成24年、住民からの要望もあり、道の駅の検討開始
- 平成26年～27年、「みんなでつくる」をテーマに住民とのワークショップを重ね、「第5次佐川町総合計画(H28～R7)」で、10年後の佐川の未来像を作り上げた
- その中で、産業振興や観光面で道の駅を望む住民の声を受け、施策に反映～ 住民の声「佐川の名産が詰まった**道の駅**に」、「ここにしかない特別な**道の駅**に」

### • 【総合計画】 方針No.2 ～産業と仕事～

豊かな自然や資源を活かした産業と仕事をつくり、町民一人ひとりが個性を發揮し、楽しくイキイキ働ける環境を整備

### 施策No.12 ～さかわ産商品の開発・流通・販売体制の整備～

**道の駅**を含めた販売施設の整備(特産品開発、人材育成、さかわブランドの推進、流通体制の強化)

## 「道の駅」計画策定の背景②

### ② まち・ひと・しごとと総合戦略の策定まで

- 平成27年度には「佐川町まち・ひと・しごと総合戦略(H27～R1)」を策定
- 「人口減少 → 地域力の低下 → 若者・子育て世代の流出 → 更なる人口減少」の負のスパイラルを防ぎ、総合計画と連動した地方創生を推進
- 中でも特に、「しごとづくり」＝「多様な主体による安定した雇用の創出」を第1の基本目標に据え、それにより人の流れを作り、ひいては地域の暮らしを守ることを目指し、総合戦略の施策の一つとして**道の駅**整備を反映した

#### 【総合戦略】 施策名～ブランド戦略による生産・販売の強化～

一次産業を中心とする町産品の新たな販売拠点として**道の駅**を整備し、既存の農産物直販施設と連携した流通促進や商品開発、磨き上げを行う  
ひいては、農林業・商工業の雇用確保、後継者育成につなげる

## 「道の駅」計画策定の背景③

### ③ 要望を受けて、具体的検討から基本構想策定まで

- 平成27年、既存の農産物直販所からの道の駅建設を求める請願書及び約1,900人分の署名を町と町議会にいただき、具体的な事業化検討に入った

要望内容 ①歴史的町並みを町外に発信する窓口の整備  
②佐川の農産物等の加工品や特産品の販売拠点整備

- 平成28年度～平成29年度、道の駅検討委員会を開催し、地元住民や関係団体、国、県等から意見を聞き、道の駅視察等を行うとともに、平成30年度にかけて建設候補地の選定を進めた
- 平成31年度(令和元年度)、道の駅基本構想の策定に着手、同じく場所を佐川町加茂地区・霧生関に決定した

## 1. 整備の背景と目的

# 「道の駅」の整備目的① まちの現状

モノ

- おいしい**農産物**が多い「米、野菜、果物、牛乳、茶」…一次産品は豊富
- **加工品**やお店も伝統のものは残り、新しいものも次々生まれている
- 「地酒、うなぎ、山椒もち」⇒伝統、「シフォン、ベーグル、プリン」⇒新

ヒト

- 外からの**人材**を活かした自伐型林業やものづくりが根付き始めた
- 集落活動センター、あったかふれあいセンターで人の輪が広がっている
- わんさかわっしょい体験博の取り組みで、新しい人材・お宝が見えてきた

コト

- 佐川町での**観光**と言えば、「歴史、文教、植物、地質」…素材は豊富
- 上町でのまち歩きガイドは定着し、牧野公園のリニューアルも進んだ
- 入込客数も着実に増えており、地元住民組織との協働の成果

佐川にしかない誇れる「モノ・ヒト・コト」はたくさんある

## 1. 整備の背景と目的

# 「道の駅」の整備目的② モノづくり

だが…**生産、加工、販売面**の課題は？

生産者

- 町内向け農産物直販所の生産者数、売上ともに伸び悩んでいる
- 加工品の作り手として、新しいアイデア商品を気軽に置ける場が少ない

消費者

- 大人数で気軽に食事ができる場、地元の料理を紹介できる場が少ない
- 佐川土産を色々ゆっくり選べる場、気軽に購入できる場が少ない



道の駅ができると…

- 国道33号沿いに農産物や加工品の販売拠点ができると、生産者としても新しい消費者の客層・ニーズが見込めるため、商品の販売経路として身近になり、チャレンジ精神(やってみよう)が生まれやすくなる
- 生産者と加工者のつながりが生まれ、商品開発や新規参入が増える
- 佐川ならではの地元料理を町外からのお客さんに随時紹介できる

## 「道の駅」の整備目的③ ヒトづくり

だが・・・**人材育成とまちづくり面**の課題は？

- ・ 旧町村5地区のつながりが少なく、活動が各地域内で留まっている
- ・ 生活環境の変化や人口減少により、昔ながらの地域のつながりが希薄になってきている
- ・ 少子高齢化により子どもとお年寄りの交流、お母さん同士の交流の場が少なくなってきた



道の駅ができると・・・

- ・ 各地区の集まりが道の駅で更に大きな集まりとなり、加茂を出会いの場とした人の輪、つながりが広がる。また町内外の交流が盛んになる
- ・ チームさかわの色々な取り組みを実際に見て、体験してもらい、町内外に広くPRできる場、また町民の「やってみよう」のきっかけの場となる

## 「道の駅」の整備目的④ コトづくり

### だが・・・**観光面**の課題は？

- ・ 観光の窓口であるさかわ観光協会は国道から奥まった、道路の狭い上町地区にあるため、中心部の観光地ではあるが駐車場も数が限られており、大人数をさばく観光拠点としては物足りない



### 道の駅ができると・・・

- ・ 交通アクセスの良い国道33号沿いの道の駅に観光総合案内機能を配置することで、上町地区や町周辺部への誘導が可能となる
- ・ 歴史、文教、植物、地質の各分野での佐川町の概要を紹介することで、それぞれに興味を持った方がふらっと足を伸ばすきっかけとなる
- ・ 佐川町に次々生まれている体験プログラムを「見て、触れて、味わって」ダイレクトに紹介できる拠点となる

## 1. 整備の背景と目的

# 「道の駅」の整備目的⑤ まとめ

いま既にある佐川にしかない素晴らしい素材をもつ  
と活かした、賑わいのある場所を目指して

新たな産業振興拠  
点と「やってみよう」  
の場づくり  
(モノづくり)



新たな人材育成と  
地域間・世代間交  
流の場づくり  
(ヒトづくり)



新たな佐川の魅  
力・体験・情報発信  
の場づくり  
(コトづくり)

全体が活気あふれるまち、佐川町へ

## 2. 佐川町と周辺の現状分析

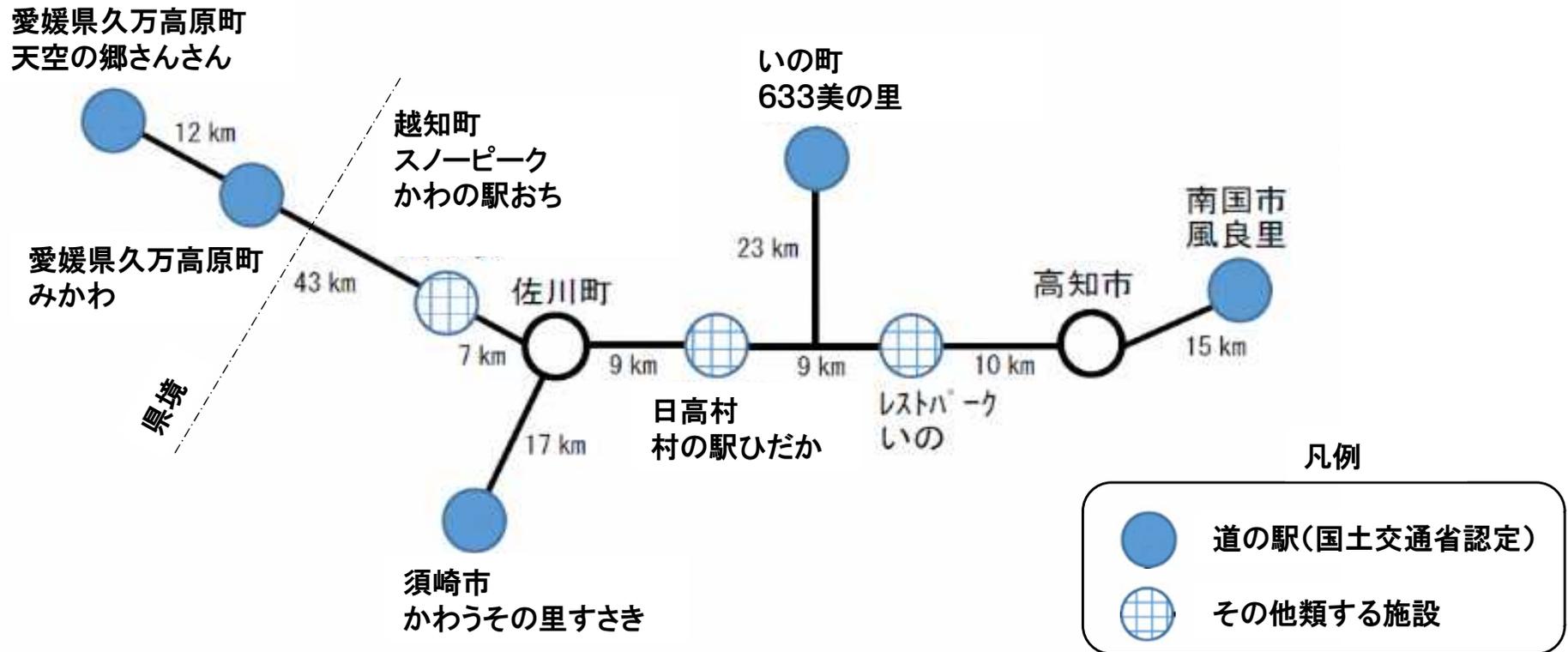
# 佐川町の自然及び地理的環境



- ・高知市から西へ約27km、県庁から車で約50分と都市部からのアクセスは良好
- ・人口は約1万3千人、総面積は約101km<sup>2</sup>、中山間に位置する盆地状の地形
- ・面積の約7割を森林が占め、自然豊かで温暖多雨の湿潤気候、霧が多い
- ・高知と松山を結ぶ国道33号、須崎方面と繋がる494号が交わり、またJRの駅が5駅あり、かつ特急列車が停車するなど、高吾北地域の中心で交通の要所

## 2. 佐川町と周辺の現状分析

# 道の駅の立地条件 周辺の施設環境を踏まえて

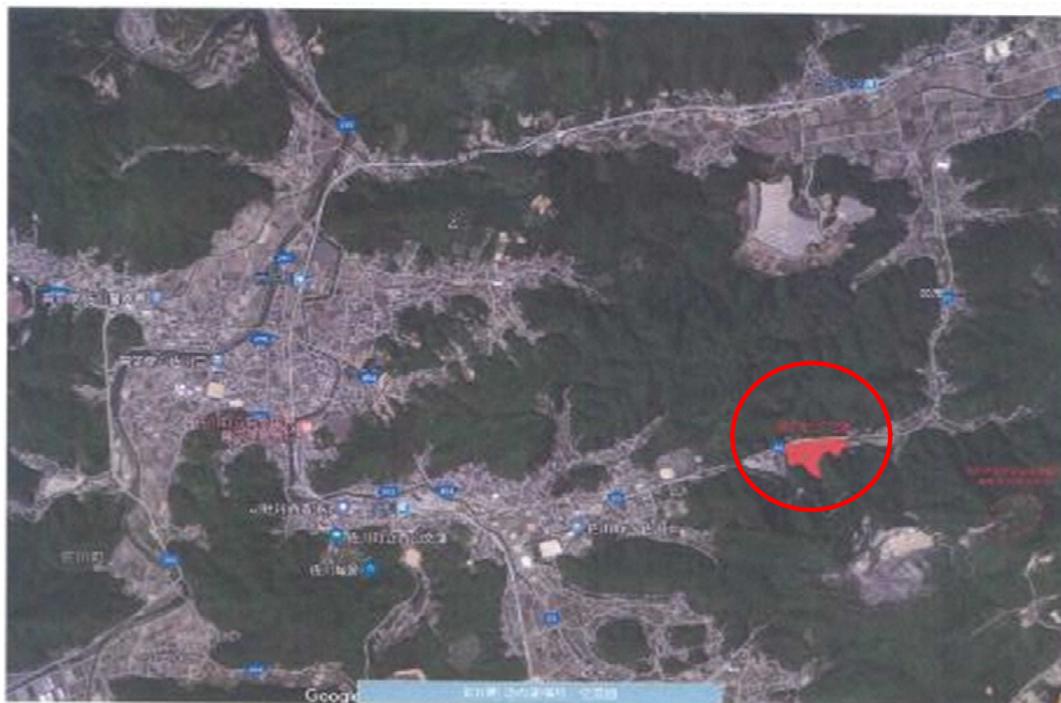


- ・高知県内の国道33号沿い、国道494号沿いには現在「道の駅」が存在しない
- ・24時間利用できるトイレ等休憩機能、情報発信機能としての立地条件は良い
- ・国道33号の自動車類交通量(佐川町加茂地区、平成27年国土交通省道路局全国道路・街路交通情勢調査)は、約1万3千台/日であり、重要な生活道路として国道利用者も多く、地域外からの集客も見込める

## 2. 佐川町と周辺の現状分析

# 計画地(加茂・霧生関)の選定理由

- ① H28～H29道の駅検討委員会にて候補地選定を行った結果、国道33号沿いで町中心部に近い2箇所を選定したが、用地関係もあり断念
- ② 牧野植物・自伐型林業のまちづくりを進めている中、自然豊かな加茂・霧生関地区が佐川町らしい道の駅予定地として適地である
- ③ 高知県が進める管理型産業廃棄物最終処分場建設に係る地域振興策として、公園整備や地域活性化施設整備を望む住民の声がある



← 道の駅計画地  
(佐川町加茂)

### 3. コンセプト

## 道の駅コンセプトについて①

### ●基本構想づくり住民ワークショップのこれまで(R1~R2)

第1回	7月29日	道の駅とは・テーマ毎のアイデア出し
第2回	8月21日	佐川らしさのキーワード探し 「地質」、「牧野」、「林業」ほか
第3回	9月24日	建設予定地の見学、ゾーニング
第4回	10月25日	レイアウト、運営体制、商品開発
第5回	11月27日	道の駅基本構想(案)について
第6回	1月29日	基本構想の決定

・第2回ワークショップの中で佐川らしい素材のひとつ、「地質」をキーワードに、たくさんの面白いアイデアが出された

- ・**ご地層シリーズ**  
＝地層とご馳走を掛けた、佐川らしさの可能性  
ご地層サンドイッチ、ご地層クッキー、ご地層うな重、など



### 3. コンセプト

## 道の駅コンセプトについて②

地質学上日本を代表する重要な地域であり、  
地質学発祥の地ともよばれるまち、佐川町。

面白い「**地層**」から地球の歴史を感じることができる。

また、なにより地酒や地乳、旬の果物や野菜など  
地のご馳走がたくさんある。

また食べ物のご馳走以外にも、  
歴史や偉人、林業など佐川の四方を見渡すと  
たくさんの特徴ある文化が根付いている。

### 3. コンセプト

## 道の駅コンセプトについて③

この「馳走」の語源は、  
客人をもてなすために四方を走り回って  
おもてなしの品をかき集めること。

つまり、おもてなしの心。

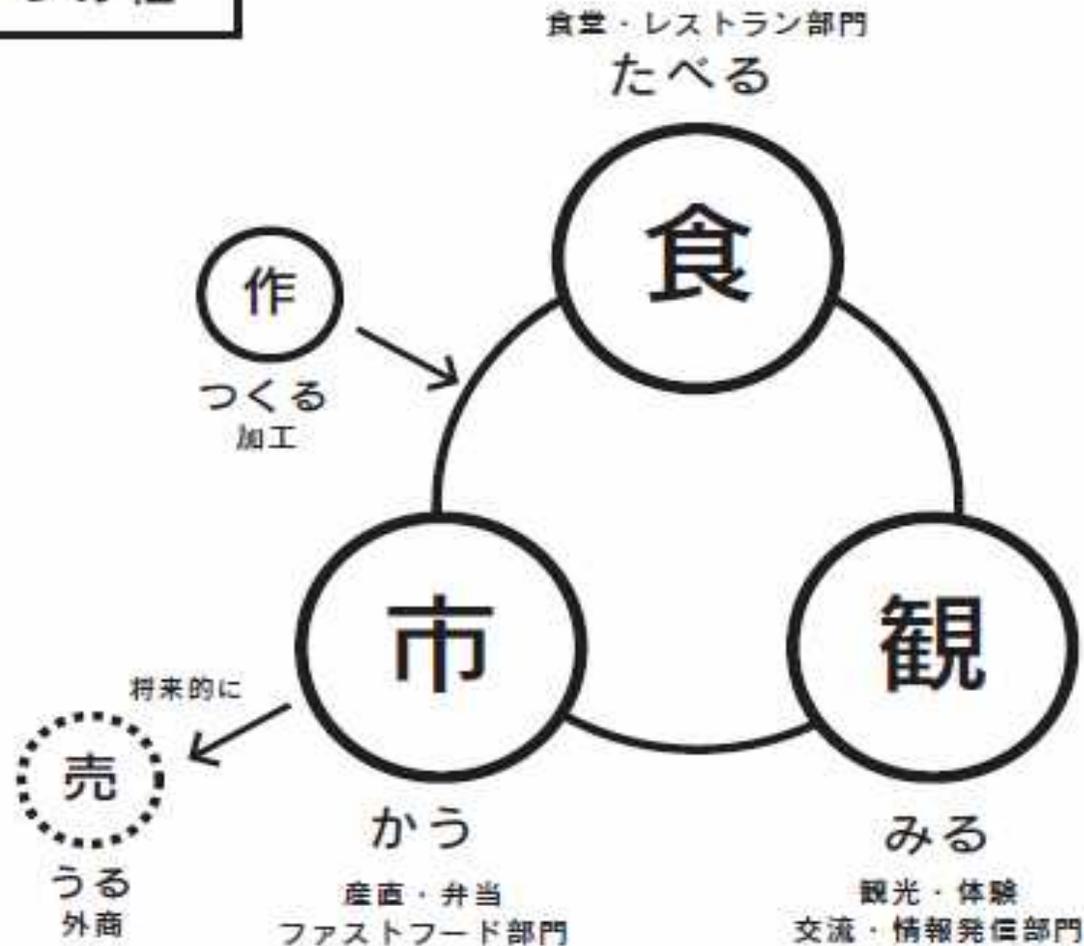
この心を持った佐川に住む私たちが、  
佐川に来る皆さんにとっての「ごちそう」でもありたい。  
人と文化、おいしい「ごちそう」がおりなす佐川です。

コンセプトは、「ごちそう佐川」

#### 4. 道の駅の機能

コンセプト「**ごちそう佐川**」を展開するための  
大きな機能は3つの柱、「市」「食」「観」

3つの柱

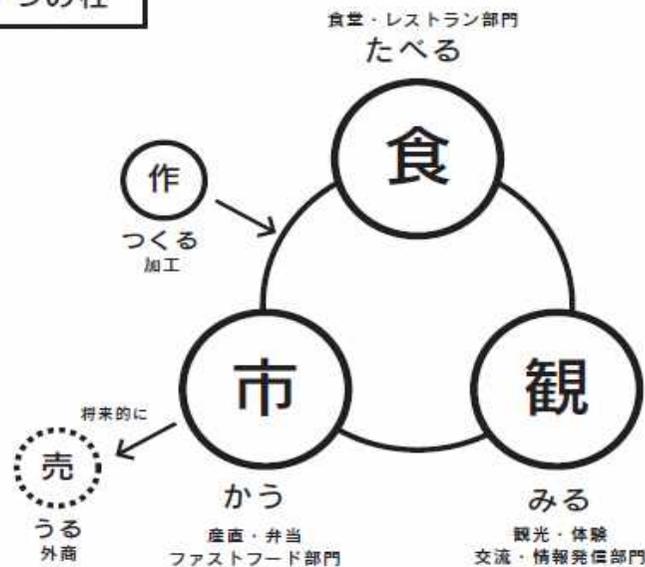


#### 4. 道の駅の機能

## なぜこの3つの機能なのか？

**市**： 佐川の特産品を買える場所  
**食**： 佐川のうまいものを食べられる場所  
**観**： 佐川の観光や産業、日常を体験できる場所

3つの柱



・佐川のものにこだわることで佐川町の産業振興に繋がる

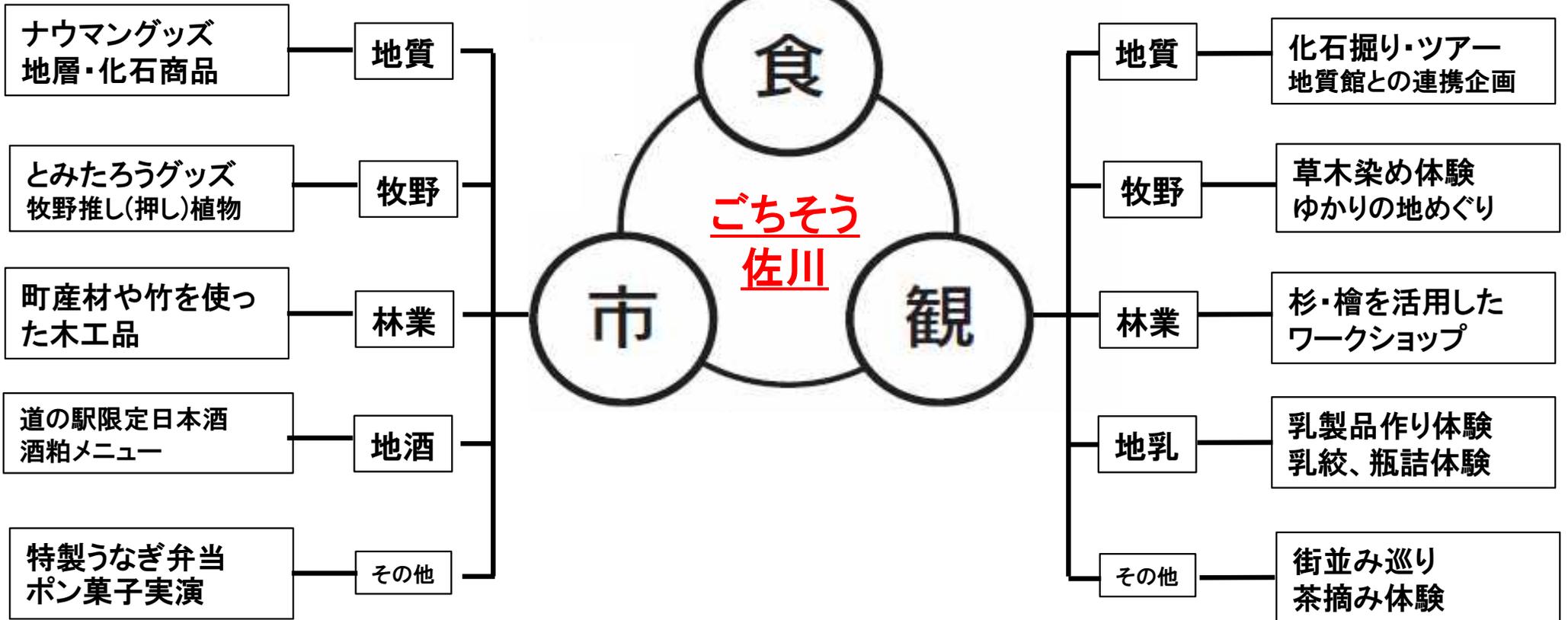
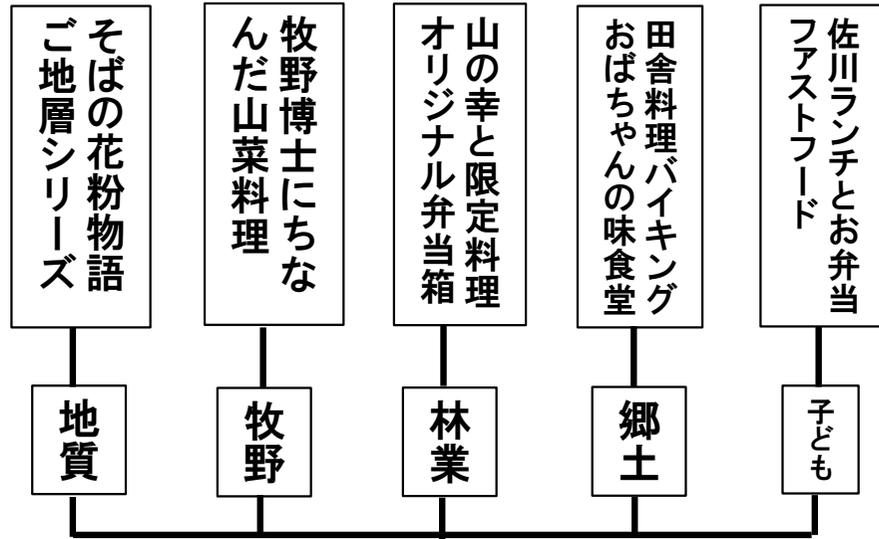
・佐川のものが揃うことで目的地となり、わざわざ行く場所となる

・観光客だけでなく、町民や地域と連携し、コミュニケーションの場となり、道の駅を拠点とした町内外のつながりを生む

#### 4. 道の駅の機能

## 3つの機能の展開案

地質・牧野・林業  
子ども・地酒・地乳など



#### 4. 道の駅の機能

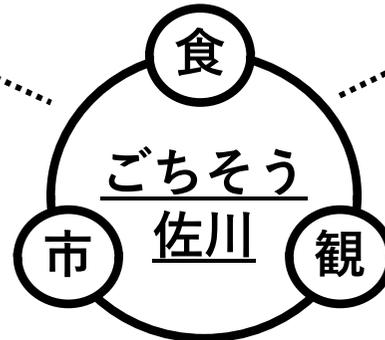
## 佐川にしかない分野別の展開案①：「地質」

- ・ご地層サンドイッチ
- ・ご地層クッキー
- ・ご地層うな重
- ・ご地層弁当

- ・地層ミルフィーユ
- ・地層ラザニア
- ・地層バームクーヘン
- ・ストーンチョコ
- ・恐竜パン
- ・アンモナイトカレー

- ・そば → 佐川町内で9300年前のそば花粉が見つかった
- ・ナウマンのドイツパン専門店
- ・古代からある山菜（ゼンマイ、ワラビ、つくし）
- ・地質×野菜
- ・貝

- ・地層グッズ
- ・地層Tシャツ
- ・ナウマンさんグッズ
- ・ナウマンさんプロマイド
- ・ナウまんじゅう
- ・化石



- ・地質館
- ・岩巡りウォーキング
- ・化石掘り体験
- ・やり、弓作り
- ・採石イベント
- ・化石クリーニング
- ・バームクーヘンづくり体験

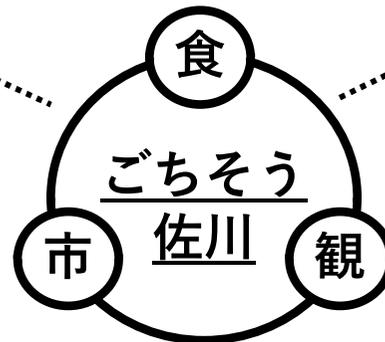
- ・佐川地質館の学芸員さん
- ・佐川でそばを作っている農家
- ・グッズ→さかわ発明ラボ

#### 4. 道の駅の機能

## 佐川にしかない分野別の展開案②：「牧野」

- ・ 牧野公園で野草採取→野草料理
- ・ 野草定食  
(植物にちなんだ材料、器、見た目)
- ・ 野草ナムル
- ・ 野草ブレンドティー
- ・ 富太郎弁当 (丼)
- ・ 牧野博士の愛妻スエさんの手料理  
(おばちゃんの手料理)

- ・ バイカオウレン育成キット
- ・ 牧野富太郎“押し”植物
- ・ 牧野博士の衣装貸し出し、  
コスプレ写真
- ・ あなたも植物博士キット  
(図鑑、ルーペ、スケッチブック)
- ・ こけテラリウム→お土産



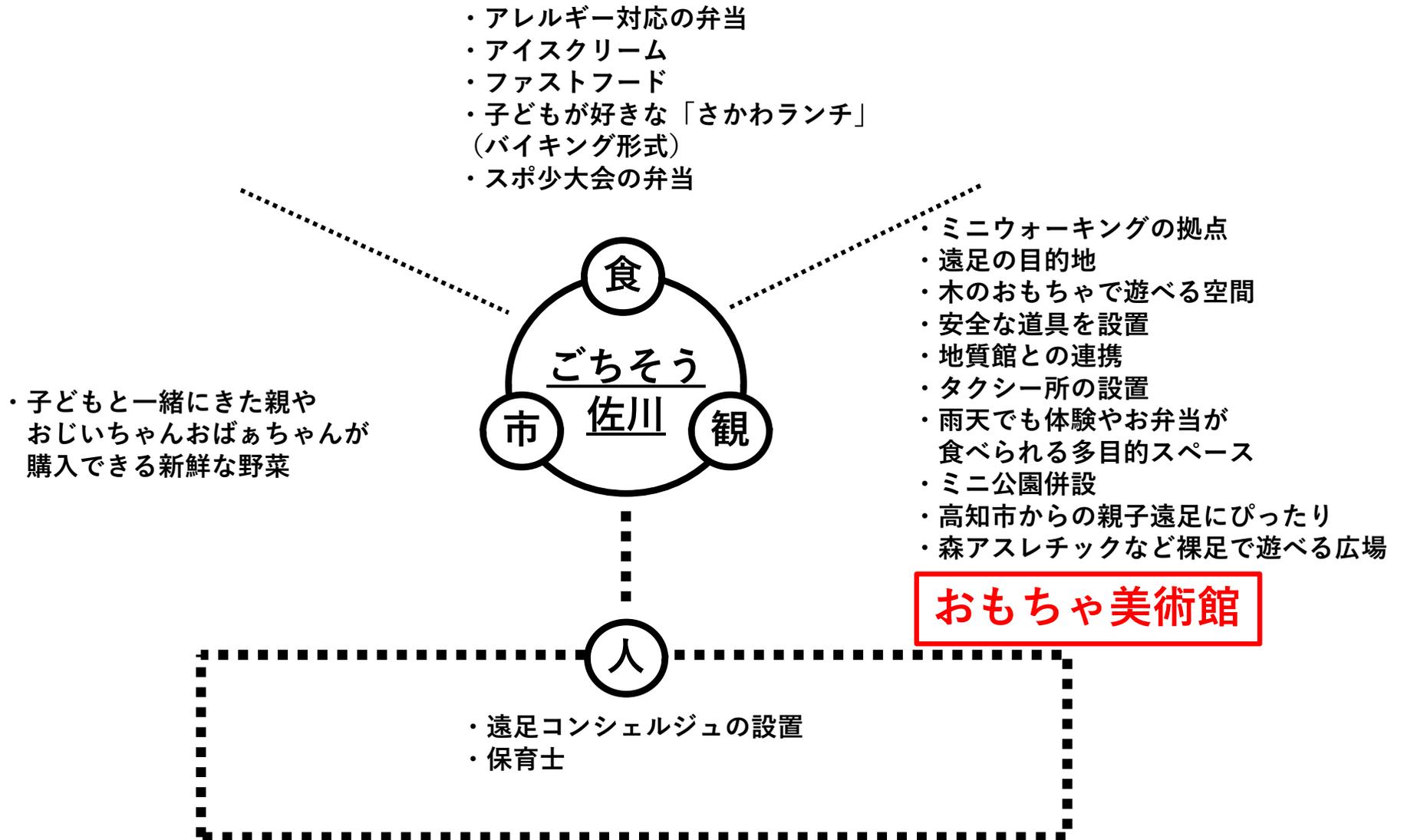
- ・ 牧野さんゆかりの場所  
(佐川園)を巡るツアー
- ・ 牧野公園ツアーガイド
- ・ おしばな
- ・ 栞づくり
- ・ 草木染ワークショップ

- ・ はなもりC-LOVEの皆さん
- ・ 牧野博士に扮した少年たち
- ・ 佐川くろがねの会の皆さん



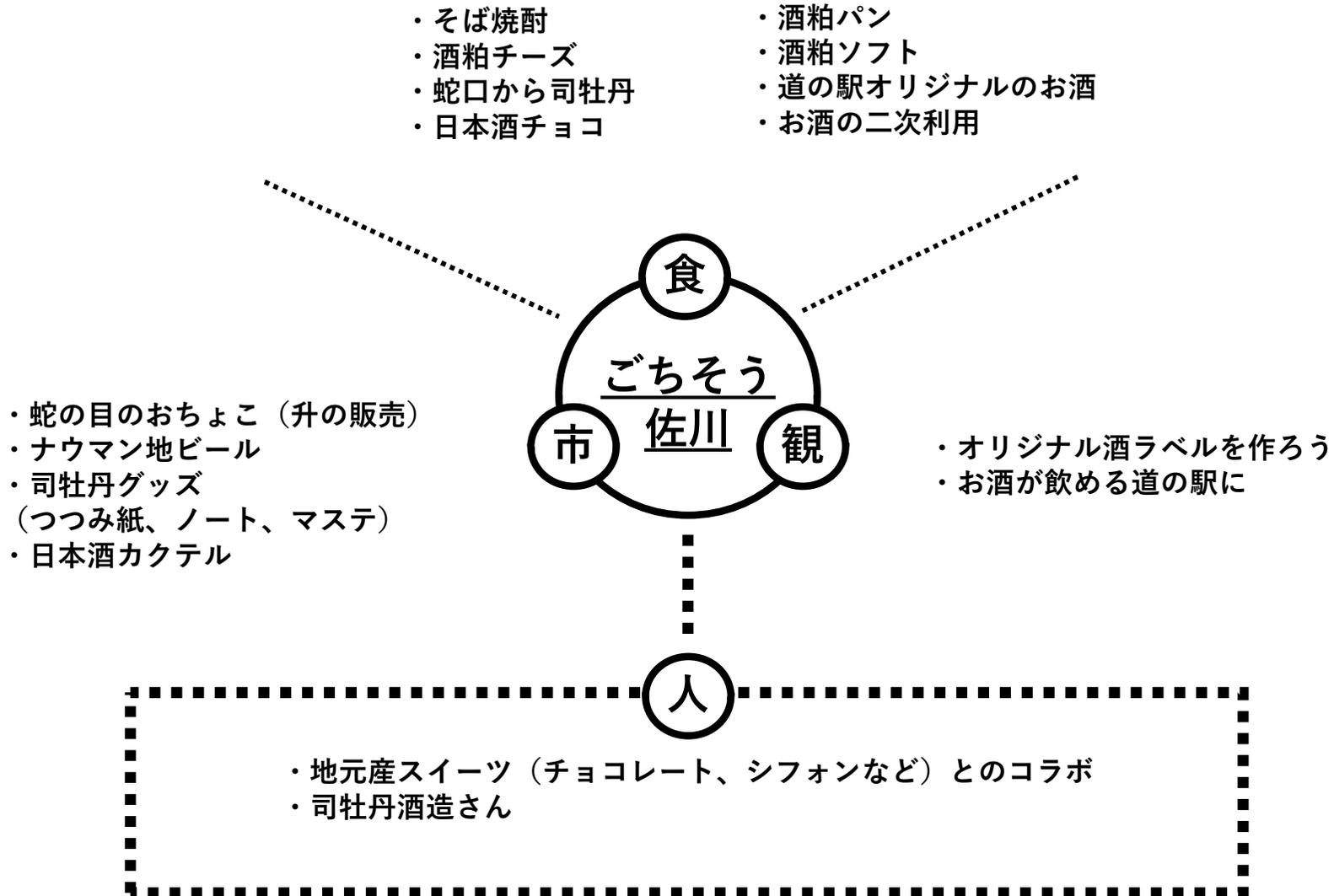
#### 4. 道の駅の機能

## 佐川にしかない分野別の展開案④：「子ども」



#### 4. 道の駅の機能

## 佐川にしかない分野別の展開案⑤：「地酒」



#### 4. 道の駅の機能

## おもちゃ美術館 ～木で遊び、木で作り、木で出会う～

自伐型林業の出口として、また子どもが思いっきり遊べる、出会いと木育の施設

### ●長門おもちゃ美術館(山口県):道の駅に併設する唯一のおもちゃ美術館



### ●持続可能な林業、木のものづくりを目指すまち、佐川町にふさわしい施設となる



## 4. 道の駅の機能

# 防災拠点機能の付加

現在の霧生関防災拠点施設を生かした「警察・消防・自衛隊の活動拠点」等、国と連携し、加茂地区での道の駅に必要な機能を付加する

地方自治体と連携し、それぞれ必要な施設等を整備

道路管理者	地元自治体
例) ◆非常用水の確保	◇地域防災計画への位置付け
◆非常用電源の確保	◇安否・医療情報等の提供
◆衛星通信等の配備	◇飲料水・毛布等の備蓄
◆非常トイレの整備	◇防災ヘリポートの整備
◆災害資材の備蓄	◇防災訓練・総合学習の場として活用

防災「道の駅」のイメージ

【参考】防災への備えの現状（直轄国道沿N=297）  
水:35%、防災トイレ:2%、電源:11%、衛星0%

### ■ 防災拠点整備例 道の駅「みかも」(栃木県)

○情報提供施設

○給水タンク(飲料用)

○非常用電源装置

道路の規制、状況、被災地の状況等の提供

○貯水槽(トイレ用)(地中)

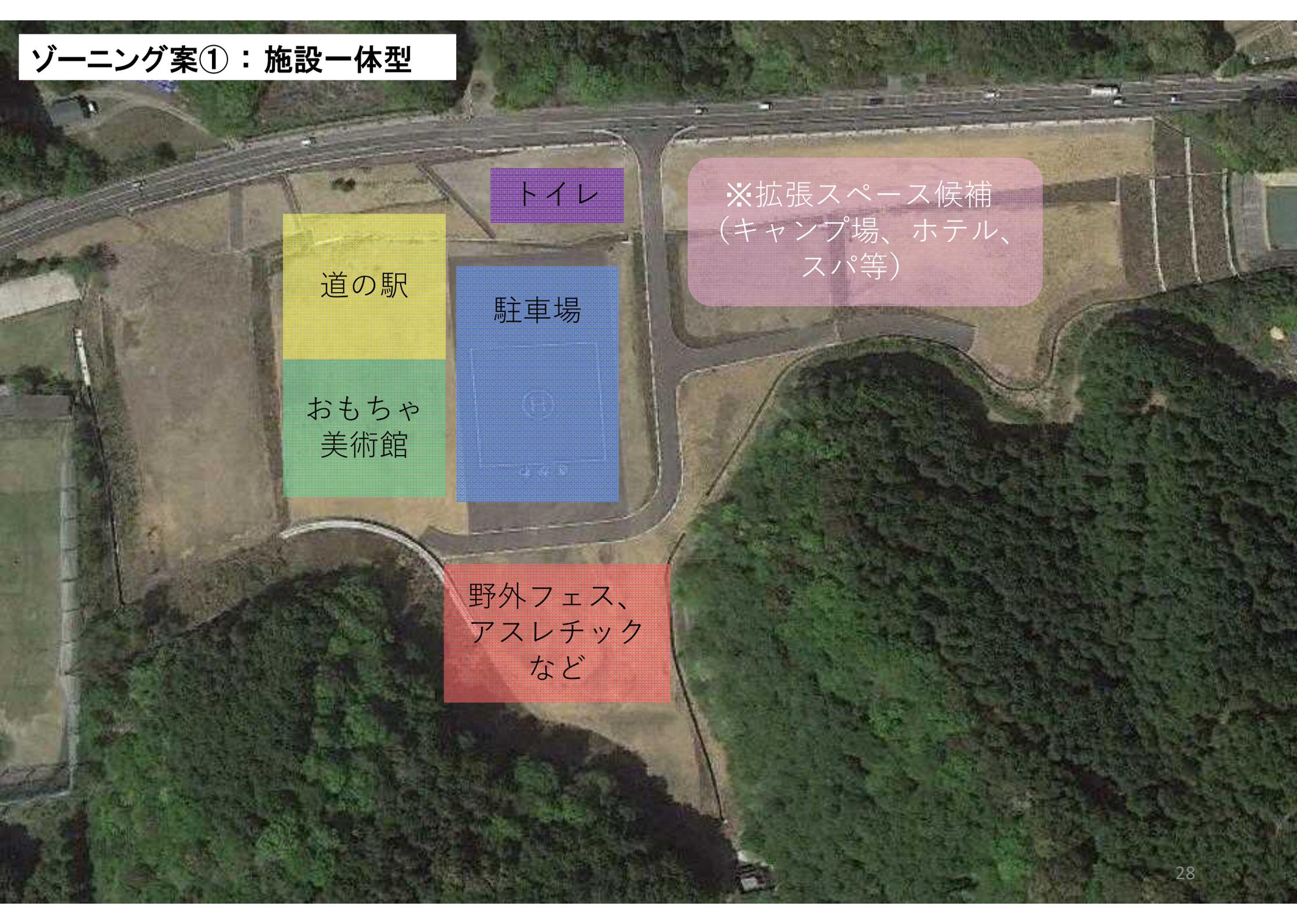
○トイレ、飲料水等の提供、非常用電源の確保  
○首都圏大地震時の北から首都圏への支援物資輸送拠点  
○道路の規制情報や被災情報等の提供

## 5. ゾーニング

# 自然豊かな広い敷地と山を活用した空間づくり



# ゾーニング案①：施設一体型



道の駅

おもちゃ  
美術館

駐車場

トイレ

野外フェス、  
アスレチック  
など

※拡張スペース候補  
(キャンプ場、ホテル、  
スパ等)

# ゾーニング案②：山側型



トイレ

※拡張スペース候補  
(キャンプ場、ホテル、  
スパ等)

道の  
駅

駐車場

おもちゃ  
美術館

## 5. ゾーニング

# 2タイプの提案「施設一体型」「山側型」の比較

	①案「施設一体型」	②案「山側型」
メリット	<ul style="list-style-type: none"><li>●道の駅とおもちゃ美術館が隣接することで、お客様の導線がフラット、バリアフリーとなる</li><li>●山側に子どもの遊べる広いスペースができる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●山と近いため、木を活かした佐川らしいおもちゃ美術館の展開がしやすい</li><li>●道の駅とおもちゃ美術館を別棟にすることでより広くダイナミックな施設設計が可能</li></ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"><li>●スペースを持て余すため、もっと活用できるのでは？オープンテラスなど考えると別々がいい</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●日当たりが悪く暗い、湿気が多い</li><li>●移動が必要、道路の横断も必要</li></ul>
共通	<ul style="list-style-type: none"><li>●駐車場の右側(東側)空きスペースは、今後の事業拡張スペースとして利用できる(キャンプ場、ホテル、スパ等)</li></ul>	

## 6. 運営体制

# 道の駅運営方式の比較検討

	①直営方式	②委託方式 (三セク・民間)	③指定管理者方式 (三セク・民間)
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町が運営・維持管理を行うため、行政意向が直接反映できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間ノウハウの活用で、維持管理費の縮減が期待できる(但し、委託範囲内に限る)</li> <li>・三セクであれば行政との連携が容易</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的に指定期間は3～5年と長い</li> <li>・民間ノウハウの活用で、維持管理費の縮減が期待できる</li> <li>・三セクであれば行政との連携が容易</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間ノウハウの活用ができない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間の場合、一般的に委託期間は1年～2年程度と短い</li> <li>・三セクの場合、出資金の財政負担が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三セクの場合、出資金の財政負担が必要</li> </ul>
特徴			<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理者の指定には議会の議決が必要</li> </ul>

## 7. デザインの重要性と商品開発

# 事例紹介：道の駅お茶の京都みなみやましろ村 「トータルデザイン」

→ お客様とのコミュニケーションを助ける役目がデザイン。  
道の駅すべてにデザインの配慮が必要

【道の駅】 お茶の京都

みなみ  
やましろ  
むら

道の駅のコンセプト

道の駅のコンセプトは「つちのうぶ」

山一帯に出がる茶畑、米・野菜・果物等を自然完熟させた生きたる野菜。  
道の駅のコンセプトを大切にしてつちのうぶ。村人の誇りと思いが詰まった  
「種からこの土地で産まれたもの」  
高品質はこれらを「つちのうぶ」のうぶ(産)と結びつけ  
それをものづくりの土台とします。

土の産

- ・その土地から産まれたもの
- ・作り手の思いが見えるもの
- ・村の暮らしぶりに裏付けられたもの

ものづくりの土台

つちのうぶ

## 7. デザインの重要性と商品開発

# 事例紹介：道の駅お茶の京都みなみやましろ村 「外観」

→ まず目につく建物。わかりやすいデザインに。



## 7. デザインの重要性と商品開発

# 事例紹介：道の駅お茶の京都みなみやましろ村 「食堂メニュー、スイーツなど」

→ 地域にある素材へのこだわりと郷土料理による  
メニュー開発で独自性を出す

 お菓子部門

主な取り組みは..  
村のお茶「村茶」を使ったスイーツの開発

商品ラインナップ

ぼた  
(村抹茶・村ほうじ茶・小豆)

村茶パウンド

村茶ほろほろ



村茶を使ったプリン・シュークリームぜんざい・各種焼き菓子の試作中

 村定食

小鉢3品(賢沢煮・大豆南蛮・季節の野菜サラダ)



村のおばあちゃん漬物

メイン  
肉・魚から選べて、野菜もふんだんに楽しめる

味噌汁  
季節の野菜と煮干しとこんぶだしをとった

佃煮(村の保存食)

ほうじ茶で炊いた香りよい茶飯

## 7. デザインの重要性と商品開発

# 事例紹介：道の駅お茶の京都みなみやましろ村 「商品開発」

→ 地域のものを使った継続的な商品開発による  
「ここにしかないもの、ここにしかない道の駅」へ



## 8. スケジュール

# 令和4年11月オープン目標

## 佐川町道の駅整備事業 全体スケジュール

R1.12.5作成

	令和元年度 (2019)				令和2年度 (2020)				令和3年度 (2021)				令和4年度 (2022)				令和5年度 (2023)							
	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1								
基本構想・計画	基本構想策定				基本計画策定																			
調査・設計					地盤調査・基本設計・詳細設計																			
施設整備工事									土木建築工事															
関係機関協議					道路管理者等関係機関との協議 (国土交通省、高知県、警察、消防ほか)																			
管理運営組織	管理運営方式検討				運営組織設立準備				運営法人設立 責任者決定				スタッフ募集				研修 開業準備				管理・運営			
その他(物販・飲食)					マーケティング(市場調査、製造、輸送、保管、販売、宣伝等準備) 新商品・メニュー開発、事業者説明及び契約締結												営業開始							
その他(観光・体験)					マーケティング(市場調査、製造、輸送、保管、販売、宣伝等準備) 体験プログラム開発、おもちゃ美術館の設立準備及び契約締結、工事												営業開始							

道の駅 開業(二〇二二年十一月)

(参考資料) 各WSの実施内容と参加者から出た意見(一部抜粋)

## 第1回WS 7月29日 道の駅とは・テーマ毎のアイデア出し

### <道の駅とは>

道の駅四万十とおわの事例をもとに、道の駅の立ち上げや取扱商品、開発した商品や経緯などを紹介。生産者100名での商品開発ワークショップにより、川エビコロッケや大道の味噌豆腐などが開発された。

### <テーマ毎のアイデア出し>

「産業振興」「食」「観光」「さかわの輪(町内外連携)」の4つのテーマに分かれて道の駅にほしいと思う機能やアイデアを出し合った

・『あそこに行ったら佐川のもんそろーちゅうで』  
そんな道の駅に。

・地元のおいしい野菜、果物、加工品が魅力的な紹介(ストーリー・背景)とともにならんでいる

・「さかわ」にしかないものが売っている

・他地域との差別化や特色を出す

・蔦屋書店みたいなおしゃれかつ文化的な建物

・農業、林業、商工(みんな)、誰でもかかわるような施設。農、林、商工の連携を。

・町内のコミュニケーションが生まれる場所



(参考資料) 各WSの実施内容と参加者から出た意見(一部抜粋)

## 第2回WS 8月21日 佐川らしさのキーワード探し

前回のWSで出た意見と、約2年前に佐川町にて行った道の駅に関するWSで出た意見を元にした、道の駅のコンセプトや機能のたたき台の資料を材料に、「食」「観」「市」+「人」を入れた意見出しを各グループで実施した。道の駅のコンセプトがより明確となってきた。

### ●地質

- ・ナウマン推し「なうまんじゅう」
- ・『ご地層シリーズ』(ごちそう=ご馳走=四方を駆け回って集めるの意)
- ・サンド、うな重、クッキーなど可能性無限大「ごちそう佐川」

### ●外国人

- ・ビーガン皿鉢、田舎寿司セット  
(はちきんのおばちゃんによる。地元の  
おばちゃんが世界とつながるおもしろい企画)
- ・ビーガン対応のニーズは高い
- ・ポケットークで会話

### ●林業

- ・木製弁当箱「木箱」

### ●異国感

- ・佐川食材を使った異国料理



(参考資料) 各WSの実施内容と参加者から出た意見(一部抜粋)

## 第3回WS 9月24日 建設予定地の見学、ゾーニング

### 〈建設予定地の見学〉

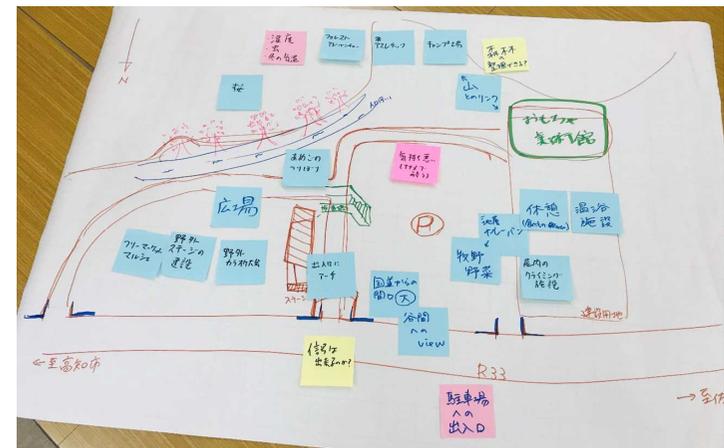
ワークショップ参加者と道の駅建設予定地に集合し、実際に道の駅が建つことを想定して、気付いたことを書き留めた。



### 〈ゾーニング〉

建設予定地を見て課題・問題点、アイデア、分からないことを地図上に情報を書きだし、その後全体で共有した。

- ・安全な導線、トイレと駐車場の距離、お客様の侵入経路確保が必要
- ・道の駅内のサイン関係の検討が必要
- ・町産材を使ったおもちゃ美術館の構想あり
- ・山側は日当たり悪いかもしれないが、自伐モデルなど林業やおもちゃ美術館、遊歩道など山との連携がとりやすい施設やスペースに活用しやすい
- ・活用案: 温泉、アスレチックスペース、屋外フェス会場、イルミネーション、自伐林業のモデル林、セラピー遊歩道など





(参考資料) 各WSの実施内容と参加者から出た意見(一部抜粋)

## 第5回WS 11月27日 道の駅基本構想(案)について

## 第6回WS 1月29日 振り返り、基本構想の報告・決定

道の駅の基本構想をまとめた資料を参加者に説明し、ディスカッションを行った。特にコンセプト案の「ごちそう佐川」等に関して意見をいただいた。

- ・「ごちそう佐川」=道の駅の名称にしても良いのでは
- ・「ごちそう佐川」OKだけど、食以外の見せ方を上手に。中身が大事
- ・「ごちそう佐川」にすると分かりづらい。「食」「市」「観」を中心の方が分かりやすい
- ・基本構想に農業振興(農産物の販売促進)の視点をもっと取り上げてもらいたい

商品開発案として生産者による試作、試食を実施した。どれも好評でブラッシュアップしていくことで今後に期待できる試作品となった。

- ①山しょう餅、ニッケイ餅、しょうが餅
- ②しいたけカツサンド、BLTEサンド
- ③しょうが、柚子、お茶の地層をイメージしたクッキー
- ④地酒を使った酒粕汁



①さかわ餅



②ごちそうサンド



③ごちそうクッキー

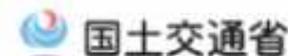


④酒粕汁

(参考資料) 道の駅とは

# 基本的機能 「休憩」、「情報発信」、「地域連携」+「防災」

## 「道の駅」の目的と機能



### 「道の駅」の目的

- ・道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供
- ・地域の振興に寄与

### 「道の駅」の機能

#### 休憩機能

- ・24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ

#### 情報発信機能

- ・道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供

#### 地域連携機能

- ・文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設

### 「道の駅」の基本コンセプト

地域とともに作る  
個性豊かな  
にぎわいの場

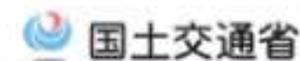


災害時は、防災機能を発現

(参考資料) 道の駅とは

# 整備の方式 「単独型」と「一体型」

## 「道の駅」の設置者、登録方法



- 「道の駅」は、市町村又はそれに代わり得る公的な団体が設置
- 登録は、市町村長からの登録申請により、国土交通省で登録
- 整備の方法は、道路管理者と市町村長等で整備する「一体型」と市町村で全て整備を行う「単独型」の2種類

整備主体と整備内容



「道の駅」の登録手続き



「道の駅」の登録数

令和元年6月現在

「道の駅」総数 1,160 駅

うち一体型 : 633 駅 (55%)

うち単独型 : 527 駅 (45%)